



## アジアの高等教育事情 ダイナミック・アジア 9

マラン・ムハマディヤ大学  
(私立イスラーム大学)

# 高等教育の一大市場を形成する底力、先を見据えた人材育成戦略

## インドネシアの高等教育戦略

服部美奈 名古屋大学大学院教育発達科学研究科准教授

インドネシアは、中国、インド、アメリカに次ぐ世界第4位の人口2億3千万人を抱える大国である。1997年の経済危機によって大きな打撃を受けたが、その後の政権交代により民主化へと大きく舵を切り、新生インドネシアが徐々に力を蓄えつつある。現ユドヨノ政権下での経済成長は順調で、GDP成長率はここ数年、平均4.5～6.3%を推移している。

街並みや街を行き交う人々の姿も1990年代とは様相を異にしている。大型ショッピングモールの賑わいや、富裕層をターゲットにした設備の整った私立学校の急増は、この

図表1 インドネシアの高等教育機関数 (2009年現在)

### ■ 国家教育省管轄

	総合大学	インスティテュート	単科大学	アカデミー	ポリテクニク	計
国立	48	6	2	0	27	83
私立	393	49	1,391	955	104	2,892
計	441	55	1,393	955	131	2,975

### ■ 宗教省管轄

	総合大学	インスティテュート	単科大学	アカデミー	ポリテクニク	計
国立	6	13	33	—	—	52
私立	85	27	393	—	—	505
計	91	40	426	—	—	557

国が確実に豊かになっていることを実感させる。本稿では今ダイナミックに変化するこの国の高等教育戦略を追ってみたい。

### 高等教育の一大市場

2009年現在のインドネシアの高等教育機関数は2,975校で、その約97.2%にあたる2,892校が私立である。高等教育機関は、総合大学(universitas)、インスティテュート(institut)、単科大学(sekolah tinggi)、アカデミー(akademi)、ポリテクニク(politeknik)にわかれる。そのうち私立で最も多いのが単科大学1,391校であり、総合大学は国立48校、私立393校となっている。一般的に国立総合大学の人気が高いが、バンドゥン工科大学やボゴール農科大学は国立インスティテュートとして名高い。

また私立総合大学のなか

にも、首都ジャカルタにあるキリスト教系のトリサクティ大学やアトマ・ジャヤ大学、中部ジャワ州サラティガ市にあるキリスト教系のサトナ・ワチャナ大学など、有名私立大学も多数存在する。

上記の高等教育機関に在籍する学生数(大学院を含む)は2009年現在で約428万人である。内訳をみると、国立総合大学に約163万人、私立総合大学に約132万人が在籍している。日本の学生数(大学院を含む)が2008年現在、約283万人(うち国立が約62万人)であることを考えると、インドネシアの高等教育市場の大きさを推し量ることができる。ちなみに上記の学生数に含まれる大学院生数は、インドネシアが約27万人、日本が約8万人であり、その規模は日本の3倍強となっている。大学院の発展も軽視できないのである。

インドネシアの高等教育進学率は、全高等教育機関を含めて約17.5%とされており、今後も年々上昇していくと予測される。このようにインドネシアの高等教育は人口規模の大きさと進学熱に後押しされて順調に発展し、高等教育の一大市場を形成しているのである。

### もう一つの系としてのイスラーム高等教育機関

ところで、インドネシアには上記でみた国家教育省が管轄する高等教育機関のほかに、もう一つの系として宗教省が管轄するイスラーム高等教育機関が存在している。2009年現在のイスラーム高等教育機関数は557校で、その約90.7%にあたる505校が私立である。イスラーム高等教育機関は、総合大学、インスティテュート、単科大学にわかれ、そのうち私立で最も多いのが単科大学393校である。一方、総合大学は国立6校、私立85校、インスティテュートは国立13校、私立27校となっている。

国立総合大学の6校は、2000年以降始まったイスラーム高等教育機関の総合大学化政策によって、インスティテュートから再編されたものである。現在、残りのインスティテュート13校も総合大学化を目指して改革を行っている。また、イスラーム高等教育機関に在籍する学生数(大学院を含む)は2009年現在、約51万人である。ちなみに上記の学生数に含まれる大学院生数は約7.7千人となっている。

これらのイスラーム高等教育機関は、宗教教師やイスラーム裁判員、宗教省公務員、イスラーム指導者といった

宗教関連の専門家を育成する機能を持ち、インドネシア高等教育の重要な一翼を担っている。人口の約9割にあたる約2億人のイスラーム教徒を擁する国家ならではの特徴であるといえるであろう。

以上のような高等教育の二元的構造のもと、現在インドネシアではワールド・クラス大学(WCU)をめざす高等教育改革が大胆に進められている。以下、近年顕著な動向についてみてみたい。

### 教師・大学教員法の制定と サンドウィッチ・プログラムによる留学促進

従来からインドネシアでは、大学教員に対して「教育・研究・社会貢献」の3つの職務「トリダルマ」が強調されてきたが、2005年に制定された教師・大学教員法において、改めて教師および大学教員が専門職であることが確認されると同時に、大学教員として満たすべき条件や資格、職務などが明文化された。

その一つが、大学教員の学位に関するものである。高度な専門性と学位を有する大学教員が少ないことが、インドネシアでは長年にわたり懸念されてきた問題であった。そこで今回の法律では、学士課程およびディプロマ課程で教えるためには修士号の学位、大学院で教えるためには博士号を取得していることが、大学教員として満たすべき最低限の資格であることが定められたのである。

ところが、2009年の統計によれば、全国約15万7千人の常勤教員のうち、博士号取得者は約1万2千人、修士号取得者は約6万人とされている。つまり現在、少なくとも約半分強の大学教員が、この新法で定める規準に達していないことになる。一方、国家教育省高等教育総局の戦略計画は、2009年までに修士号以上の学位を取得した大学教員を70%まで引き上げることを目標としていた。

高等教育総局は2008年以降、国家教育省の予算により、現職大学教員に対して海外で博士号を取得するためのサンドウィッチ・プログラム奨学金を支給している。サンドウィッチ・プログラムとは、国内の博士課程に在籍しながら、海外の協定大学に一定期間在籍することによって学位を取得するプログラムである。2008年には国内の博士課程に在籍する782名の現職大学教員が世界27カ国に派遣され、最低4カ月間のサンドウィッチ・プログラムを受講している。2009年にも引き続き400名の現職大学教員に対

してこの奨学金が支給され、32億ルピア(日本円で約1千万円)が予算化された。

政府は現在も継続して、積極的に現職大学教員の修士号、博士号取得のため、海外留学や内地留学を促進する政策を実施している。つまり、政府は「大学教員の質が大学教育の質を決定する」という考え方のもと、大学教員の学位取得率の向上によって、大学教育の質の向上を図ろうとしているのである。

### 大学評価システムの強化

高等教育の質の向上に対するニーズの高まりにより、適格認定システムが大きく再編された。1994年に設立された全国大学基準委員会(BAN:Badan Akreditasi Nasional)は当初、高等教育総局の1ユニットであったが、1998年に高等教育全国基準委員会BAN-PTとして再編され、国家教育大臣に直属する独立した組織となった。

新しい適格認証システムの顕著な特徴は、国立・私立を問わず、すべての高等教育機関のプログラムが評価の対象となっていることであり、私立大学のみが対象だった従来の評価システムとは性質を異にしている。この再編は、私立大学に比して国立大学は教育の質が高いというこれまでの暗黙の常識を覆すものでもあった。

第一段階として1998年に国立・私立の209機関で提供される学士課程プログラムの評価結果が公表され、国立高等教育機関10校18プログラムがD評価を受けた。当時の評価は700点満点で、400点以上なら規準認定されるが、400点未満はD評価となり、基準認定されない。A評

価を受けたプログラムは、他の同種のプログラムに対して指導の権限をもつ。一方、D評価を受けたプログラムは、A評価を受けたプログラムの指導のもとに改善が図られる仕組みになっている。なお、A評価は601点以上、B評価は501～600点、C評価は400～500点とされた。

大学評価システムの強化は、私立大学のみならず国立大学にも緊張感を与え、各大学における教育研究の質の向上と改革に一定の強い影響力を及ぼしている。そして大学間の競争を促しているといえる。

### 大学の再編—国有法人化と総合大学への移行

国立高等教育機関の国有法人化は2000年に始まった。ただしインドネシアの場合、日本とは異なり、一定の条件が整った高等教育機関から順次、国有法人化される形をとっている。この形のメリットは、国有法人化を希望する大学がその規準を満たすよう大学を改善しようとすることで改革意識が生まれることであろう。国有法人化された大学には、財政、人事、資産運営、教育研究などに関する自治が与えられる。2000年代以降、最初に国有法人化されたのは、いわゆる主要4大学のインドネシア大学、ガジャマダ大学、ボゴール農科大学、バンドゥン工科大学であった。その後、インドネシア教育大学など2010年現在までに上記の大学に加えて3大学が法人化されている。

同時に2000年代以降、国立教育大学IKIP (Institut Keguruan dan Ilmu Pendidikan, 以下、IKIP)と国立イスラーム宗教大学IAIN (Institut Agama Islam Negeri, 以下、IAIN)の総合大学への移行が進められている。総合大学への移行の主な理由は、第一に国立大学の定員拡大、第二に質の高い学生の入学確保、そして教育の質の向上を図る目的があったとされている。

全国に10設置されていたIKIPが2000年9月までに総合大学に移行した。これに伴い、IKIPの名称は総合大学universitasへと変更された。最も有名なバンドゥン教育大学IKIP Bandungはインドネシア教育大学 Universitas Pendidikan Indonesia

に名称変更され、教育学以外のコースが提供されるようになっていく。また、IAINの総合大学への移行については、2002年にジャカルタのシャリフ・ヒダヤトゥッラー国立イスラーム宗教大学が、総合大学としてのシャリフ・ヒダヤトゥッラー国立イスラーム大学 Universitas Islam Negeri Syarif Hidayatullahに移行したことを端緒に、2010年までに6つの国立イスラーム宗教大学が総合大学へと移行している。

総合大学化されたイスラーム大学では、従来の「イスラーム法学部」を「イスラーム法・一般法学部」に、「ダッワ(宣教)学部」を「ダッワ・コミュニケーション学部」などに再編し、イスラームと一般学問を分離しない知の統合が目指されている。イスラーム大学への移行は、多様な学問の受容や新しい知的伝統が、イスラーム高等教育を一層発展させる重要な契機になると考えられている。

### 積極的な国際交流・戦略

大学教員の学位取得推進政策にもみられるように、インドネシアでは海外の大学への留学が奨励されている。特に、マレーシア、シンガポールなどの東南アジア諸国のほか、オーストラリアにも多くの留学生を送り出している。例えば、マレーシア高等教育省で入手した資料によれば、マレーシアの高等教育機関に留学している外国人留学生の総数は2008年の統計で約6万9千人とされるが、うちインドネシア人は9,358人であり、出身国別にみると最も多くなっている。

このような海外留学の傾向はイスラーム高等教育機関も同様である。IAINおよびイスラーム大学は、エジプトのアズハル大学をはじめとする中東諸国だけでなく、これまでもアメリカのシカゴ大学、コロンビア大学、オハイオ大学、カナダのマギル大学、オーストラリアのオーストラリア国立大学、メルボルン大学、モナシュ大学、オランダのライデン大学をはじめ、多くの主要大学との間に協力を築いている。これにより、古典的なイスラーム学の伝統と西洋の宗教研究における方法論を身につけた新しい世代の知識人たちが育成され、インドネシア独自のイスラーム研究を発展させている。

インドネシアの高等教育の強みは、グローバル化時代のなかで積極的に世界のリソースを活用し、また東南アジア



国立インドネシア大学

近隣諸国をはじめとする各国との連携を強めていることである。同時に、イスラーム教徒が多数派を占める国として、中東諸国との交流関係を維持していることにある。つまり、高等教育交流を通して世界の多様な地域と関係構築を進めているといえる。

### 東南アジア地域と積極的な相互交流を

今後、インドネシアの高等教育就学率はさらに上昇し、高等教育機関の在学者数が増加することは確実である。そして海外留学を通して広がる高等教育の国際ネットワークは、インドネシアの今後の国際学術交流を豊かにさせると同時に、研究の発展を促進していくことが予想される。特に東アジアおよびASEAN間のネットワークは、留学送り出しだけでなく、留学受け入れ国としても将来的に発展していく可能性を充分有している。また本稿では触れることができなかったが、1999年以降の地方分権化の推進により、各地域の大学はそれぞれの持ち味を生かした高等教育改革を行っている。その意味で、国家単位の高等教育改革もさることながら、多様性に満ちた各地方の高等教育の動向にも注目していくべきであろう。

日本は東南アジア地域との関係強化のためにも、積極的に当該地域の学生や大学教員との相互交流を促進すべきである。学部生のみならず、修士号、博士号取得を希望する学生や現職の大学教員の需要は高く、その受け皿の一つを日本の大学が担うことは、将来的な関係構築のためにも非常に重要なことである。

図表2 インドネシアの高等教育改革戦略

